7　芸術（美術）

学校番号	T2101

平成３１年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	２	年次	３～４
使用教科書	高校美術２（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・感じ取ったことから考える「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」、感じ取ったこと・目的や機能から考える「映像メディア表現」と「鑑賞」の分野について学習します。
・一人ひとり、思いや見方、感じ方が違います。表現形式の特性や形体・色彩などについて着目して、自分なりの感じ方や見方、表現を深めていきましょう。違った見方を「鑑賞」で共有すると、また更に広がったり深まったりします。

2　学習の到達目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動やグループワークの様子	ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート 発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期中間考査まで	美術ってなんだろう	【鑑賞】 ・オリエンテーション 学習内容、材料用具について 【表現・絵画】 近景と遠景－風景を描く	○ ○	○	○		a:美術の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。 b:身近なものを見つめ直し，よさや美しさに気づき，感じ取ったことや考えたことなどを基に構想を練り，配置や構図を工夫して表現すること	学習活動の様子 制作の様子 作品
	デザインとは	【鑑賞・デザイン】 「デザインの世界」 デザインの広がりを考える。 【表現・デザイン】 ﾒｯｾｰｼﾞを伝える 「文化祭のポスターを作ろう」	○ ○	○ ○	○ ○		a:デザインの世界の幅広さや役割を理解し，デザインとは何か，デザインするときに大切なことは何かを考えながら鑑賞し，表現につなげる。 b:ポスターの目的を理解し，伝達の効果を考えてイラストレーションや文字を検討し，配置や配色を工夫して，文化祭ポスターを構想する。	制作の様子 制作途中の作品 作品
後期期末考査まで	日本の美術、発見！	【鑑賞・絵画】 「日本美術」 日本美術の魅力を味わう。 【表現・絵画】 日本画で花を描く。 墨の濃淡でｲﾒｰｼﾞを表現する。	○ ○ ○			○ ○ ○	a:日本の伝統的な美術の表現の特質に関心を持ち、日本及び諸外国の美術文化について理解しようとしている。 d:花の写生を基に、日本画を描くことで日本の伝統的な技法のよさを理解する	ワークシート 鑑賞活動の様子や発言内容
	立体で表わす	【鑑賞・彫刻】 「彫刻の魅力」 彫刻の魅力を考える。 【表現・彫刻】 「生命感や存在感を表す」水や自然現象を描く。	○ ○ ○			○ ○ ○	a:日本の伝統的な美術の表現の特質に関心を持ち、日本及び諸外国の美術文化について理解しようとしている。 d:日本の伝統的な美術の表現の特質や様式、主題や表現方法、日本及び諸外国の美術文化について理解を深めている。	ワークシート 鑑賞活動の様子や発言内容

※ 表中の観点について a:美術への関心・意欲・態度 b:発想や構想の能力
c:創造的な技能 d:鑑賞の能力

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。